

電波時計（掛時計）取扱説明書

～ 製品の特長 ～

- 標準電波を受信して正しい時刻に自動修正
- 暗くなると文字板面を照明します
- 明るさを無段階調節することができます
- 暗くなると秒針が12時位置に停止します

お買い上げいただきありがとうございます。

お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お読みになった後もお手元に保管して、必要に応じてご覧ください。

アフターサービスについて

この時計のアフターサービスは、お買い上げ販売店がいたします。つぎの記載事項と保証書をよくお読みの上、ご利用ください。

- 修理部品の保有について**
この時計の修理用性能部品（電子回路など）は製造打ち切り後、7年間を基準に保有しています。ただし、外装部品（ケース類）の修理には、類似の代替品を使用したり、現品交換させていただくことがあります。
- 修理可能期間について**
無料保証期間が過ぎても、この時計の性能部品保有期間中は、原則として有料修理が可能です。ただし、修理には販売店と修理工場の往復運賃・諸掛り費用も加わり、商品により修理代金が高額になる場合がありますので、販売店とよくご相談ください。
- 転居または贈答品の場合**
転居または遠隔地からの贈答品で、お買い上げ販売店でのアフターサービスが受けられない場合は、お客様相談室にご相談ください。保証期間中の場合は、販売店の保証書が必要です

発売元 リズム時計工業株式会社

〒330-9551 埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299番12
http://www.rhythm.co.jp

お問い合わせ先 お客様相談室 0120-557-005
受付時間 9:00～17:00（土日、祝日および当社休日を除く）
お問い合わせに際しては、時計裏面に表示してあります製品番号（型番）をお伝えください。 例 4MY○○○

CITIZENはシチズンホールディングス株式会社の登録商標です。

(Y1007)

安全にお使いいただくために（はじめにお読みください）

ここに示した注意事項は、あなたや他人への危害や損害を未然に防ぐためのものです。必ず守ってください。

■表示の説明について

表示内容を無視して、誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、下記の表示で区別して説明しています。

- | | | | |
|--|--|--|---------------------|
| | 「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。 | | してはいけない「禁止」内容です。 |
| | 「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。 | | 必ず実行していただく「強制」内容です。 |

■誤飲による事故防止について

小さな部品や電池は、幼児の手の届く所に置かないでください。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受けてください。

分解したり改造しないでください。故障の原因になります。

本製品は精密機器です。落としたりして衝撃を与えないでください。故障や破損の原因になります。

■使用場所について

下記のような場所では使わないでください。
機械やケース、電池の品質が低下し、精度不良や時計、電池の寿命が短くなります。

- 温度が+50℃以上になる所。例えば、長時間直射日光のあたる所や暖房器具等の熱風や火気に近い所。
- 温度が-10℃以下のところでは、プラスチックが劣化したり、電池の性能が低下することがあります。
- 浴室など湿気が多い所。
- ほこりが多く発生する所。
- テレビ・OA機器・オーディオのそばなど強い磁気が発生する所。磁力の影響で、時計の進みや遅れが生じたり、止まることがあります。
- 車中や船舶、工事現場など、振動の激しい所。
- 温泉場など、ガスの発生する所。
- 多くの油を使用する所。霧状になった油分がケースや機械部に付着し、汚れや止まりの原因になります。
- 軟質のポリ塩化ビニルに長い間、直接ふれさせておくと、相互に色移りしたり、付着することがあります。

お手入れについて

- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤や石けん水を、やわらかい布に少量つけてふき取り、その後、からぶきしてください。
- ケースなどのよごれ落としに、ベンジン、シンナー、アルコール、スプレー式クリーナー類は、使用しないでください。
- 静電気により、時計や掛けた壁面が汚れることがありますので、定期的に汚れを落としてください。

時計の廃棄

- お住まい地区自治体の指定にしたがってください。
- 表示用の電池およびバックアップ用の内蔵電池を取り外して廃棄してください。

静電気の影響について

静電気により、誤作動をすることがあります。このようなときには、強制受信ボタンを押してください。

電波時計について

電波時計とは

電波時計は、正確な時刻およびカレンダー情報をのせた標準電波を受信することにより、自動的に表示時刻を修正し正確な時刻をお知らせする時計です。

標準電波とは

標準電波(JJY)は、日本標準時(JST)をお知らせするために、情報通信研究機構が運用している電波です。
※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という「セシウム原子時計」によるものです。
標準電波送信所は、福島県の「福島局：おたかどや山標準電波送信所」と佐賀県と福岡県の県境にある「九州局：はがね山標準電波送信所」の2カ所にあります。
標準電波の詳細については、情報通信研究機構のホームページをご覧ください。
(http://jjy.nict.go.jp)

標準電波の送信停止について

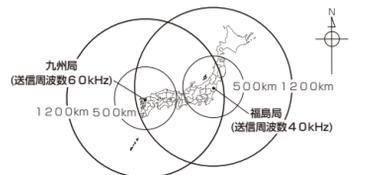
送信所の定期点検や落雷などの影響により、標準電波の送信が停止することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

海外でのご使用について

この時計は、日本以外の標準電波は受信できません。海外で使用した場合、まれに日本の標準電波を受信し、日本の標準時を表示したり、ノイズにより誤った時刻を表示することがあります。海外でのご使用になるときには、電波受信機能をOFFにして手動で時刻を合わせてお使いください。

電波の受信範囲について

送信所から約1200km離れた場所でも受信可能です。ただし、受信範囲であっても電波障害(太陽活動、季節、天候、置き場所、時間帯(昼/夜)あるいは地形や建物の影響など)により、受信できないことがあります。

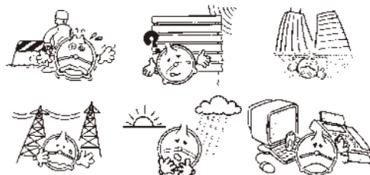


この時計は福島局と九州局に対応しており、標準電波を自動選択して受信します。

電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- ビルの地下など
- 高圧線、テレビ塔、電車の架橋近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く
- スチール机等の金属製家具の上や近く



電池のご注意（電池の正しい使い方）

電池のご使用上のポイント 正しく使って事故をなくしましょう

- プラス（+）、マイナス（-）を間違えない。
- 古い電池と新しい電池を混ぜない。
- 種類の異なる電池を混ぜない。
- 時計が動いていても定期的に変換する。
- 長期間使用しないときは電池を取り外す。
- 時計が止まったらすぐに電池を取り外す。
- 電池に表示されている使用推奨期間内に使う。
- 電池を新しくするときは、全部取り替える。
- 幼児の手が届かないところに置く。

電池の種類について

- 本製品は電池の特性に合わせて設計されています。指定以外の電池では、製品仕様を満たさない場合や正常に機能しないことがあります。
- アルカリ乾電池とマンガン乾電池は形状的に互換性があり、一般にアルカリ乾電池のほうが長持ちします。Ⓢ **アルカリとマンガン乾電池の混在使用は液もれの原因となりますのでおやめください。**
- 一般に充電式の電池は電圧が低く、時計には不向きですので使用しないでください。
- 一部の高性能電池では、初期電圧が高く時計には不向きなものがあります。
(例・Panasonic オキシライド乾電池)

取り扱いについて

電池からの液もれや発熱、破裂を防止するために、つぎのことをお守りください。
 ●電池に傷をつけたり、分解しない。 ●電池をショートさせない。
●電池を充電しない。 ●時計を使用しないときは電池を取り外す。
 ●時計が止まったらすぐに電池を取り外す。

液もれが起きてしまったとき

電池からもれた液が目や皮膚についたら、すぐに水道水でよく洗い流して医師の治療をうけてください。アルカリ乾電池の場合、失明や炎症などの障害が発生する危険性が高くなります。衣服に付着した場合は、すぐに水道水で洗い流してください。

もれた液に直接触れないでください。特にアルカリ乾電池には注意してください。ゴム手袋をして電池をはずし、もれた液を布や紙でよくふき取ってください。修理が必要なときはお買い上げの販売店または当社お客様相談室にご相談ください。

電池の寿命について

- 付属の電池は、工場出荷するときに入れていますので、製品仕様より短い期間で電池切れになることがあります。
- 使用環境の温度などにより、製品仕様より電池寿命が短くなる場合があります。
- 買い置きした電池を使用した場合、保管状態や乾電池に示されている「使用推奨期限」により、電池寿命が短くなる場合があります。

電池の廃棄

- お住まい地区自治体の指定にしたがってください。

火に入れると破裂の原因となり危険です。

おもな製品仕様

時間精度	標準電波受信成功直後の表示精度 秒針 ±1秒 時針/分針 目盛りに対して±3度 標準電波を受信しないとき 平均月差±20秒（常温中のクォーツ精度）
使用温度範囲	-10℃～+50℃
使用電池	表示用：単2形アルカリ乾電池 JIS規格LR14 6個 内蔵：リチウム電池 CR2032 1個
電池寿命	表示用：下記「電池寿命と使用条件」 内蔵：工場出荷時より5年以上（交換不要）
標準電波受信局	標準電波を受信して時刻を修正 福島局/九州局 自動選択
受信回数	最少 1回/日、最多 12回/日
受信機能	ボタン操作でON/OFF切り替え
サーチ機能	受信局、電波の強弱表示
手動時刻合わせ	ボタン操作
照明機能	明暗センサーと連動して暗いところで文字板面照明
明るさ調節	ロータリー式 無段階調節
暗所秒針停止	明暗センサーと連動して、暗くなると秒針を12時位置に停止
スリープモニター	暗所の状態を再現
電池の交換時期	交換時期になると秒針が常時12時位置に停止
お知らせ機能	
電池寿命と使用条件	自動照明を1日に7時間使用 照度調節つまみ位置 最小（●暗） 中間位置 最大（●明） 表示用電池の寿命 約4年10ヵ月 約2年5ヵ月 約8ヵ月 自動照明を使わない場合は、時計が動いていても5年以内に電池を交換してください。

※電池からの液もれを防止するため、時計が動いていても5年を超えて使い続けないでください。
※いづれの場合も、標準電波の受信に成功しているときのものです。

標準電波受信開始時刻

自動受信による時刻修正回数は、最少1日1回から最多1日12回まで受信状況により変化します。	条件	回数	開始時刻
▶受信成功から72時間以内の場合	1～3回/日	AM 2:16:40、AM 3:16:40、AM 4:16:40	
▶連続72時間以上受信に失敗している場合	12回/日	奇数時の16分40秒	
▶初めから受信に失敗している場合			
▶手動で時刻合わせをした場合			例 AM 1:16:40、AM 3:16:40など

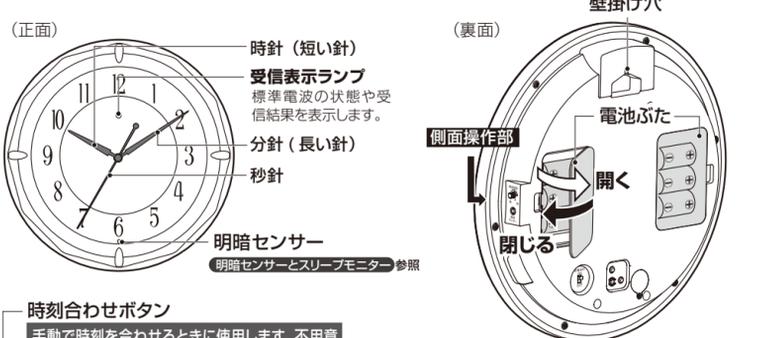
- 製品仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

付属品

単2形アルカリ乾電池	6個	リチウム電池（内蔵）	1個		
木ねじ	1個	取付金具	1個	<ぎ	4個
取扱説明書	本書	保証書	1枚		

この取扱説明書を許可なく複製、変更することを禁じます。
本製品を使用することによって生じたいかなる支出、損益、その他の損失に対してなんら責任を負いません。

図は操作説明用ですので、実際の商品と異なることがあります。



時刻合わせボタン
手動で時刻を合わせるときに使用します。不用意にボタンに触れると時刻が変わることがあります。

強制受信ボタン
電池を入れたとき、設置場所を変えたとき、誤受信したときに使用します。
内蔵電池
お客様が交換する必要はありませんので、開けないでください。

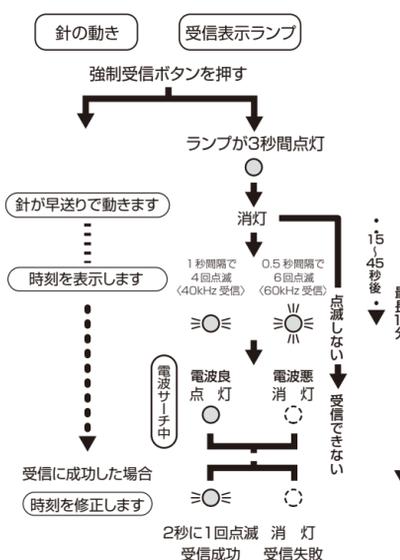
〈表示用電池の入れ方〉

電池がたを取り外し、6個の単2形アルカリ乾電池を電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて入れ、電池がたを取り付けてください。
通常の針の動き
時計・分針：10秒に1回動きます。
秒針：滑らかな1秒ステップ。
※自動受信で時刻を修正するときは、順方向または逆方向に早送りしたり、停止することがあります。

内蔵電池による時刻のバックアップ

この時計は、工場出荷時に電波を受信させ、内蔵電池により時を刻みつけています。また、内蔵電池により受信を試み、受信に成功した場合、時刻を修正しています。表示用電池を入れて強制受信ボタンを押すと、およそ3分以内に時刻を表示します。表示用電池を取り外したり電池切れのときには、内蔵電池に切り替わります。
※内蔵電池のみでは、針による時刻表示をしません。
※表示用電池により時刻表示をしているときには、内蔵電池をしません。
※電波受信機能が「OFF」のときには受信を行いません。

標準電波—受信の流れとサーチ機能の使い方



電波サーチ機能は、受信表示ランプの点灯または消灯により、時計がある場所の電波状態をお知らせします。

サーチ機能を使用するときの手順

- 1 窓際やベランダなど電波の受信しやすいところに時計を移動させます。
2 強制受信ボタンを押します。受信表示ランプが約3秒間点灯後に受信を開始。針は早送りで移動し、時刻を表示します。
3 受信局を表示後、受信表示ランプが点灯したら、設置したい場所に時計を移動します。
4 電波状態を確認します。点灯：電波良好→受信できる可能性大
消灯：受信できない→時計を移動させてください。
5 受信結果を表示します。
受信成功：2秒に1回点滅
受信失敗：消灯

- 受信に成功してもノイズにより誤った時刻を表示することがあります。このようなときは、場所を変えて強制受信ボタンを押してください。
○受信に失敗している場合は、表示されている時刻は正しくありません。
○受信表示ランプは、受信に成功すると最長で24時間表示を続けます。

標準電波を受信できない場合

- 朝までそのまましておく
一般的に夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくことで受信できる可能性が高くなります。1～2日後に受信結果を確認してください。
●場所を変える／受信をやり直す
電波の受信しやすい窓ぎわで取扱説明書の日本地図を参考に、時計の正面または裏面が電波の送信所に向くようにして、強制受信ボタンを押して再度受信を行ってください。
●時刻を合わせて使用する
ベランダなど屋外で電波の受信に成功させるか、手動で時刻を合わせて使用してください。電波が受信できないときの時間精度は、クオーツ精度になります。

受信できない場合や意図的に時間をずらしてお使いになる場合は、下記の操作で時刻を合わせることができます。

手動での時刻合わせ

時刻合わせボタンを操作することにより、手動で時刻を合わせることができます。このときの時間精度はクオーツ精度になります。
※時刻合わせボタンを離しているのに、針が早送りで動いている場合は、通常の針の動きになってから操作をしてください。
※電波受信機能がONのときは、受信に成功すると時刻を修正します。
☞電波受信機能のON/OFF操作参照。

時刻合わせボタンを押すと、時計・分針・秒針が動き始めます。
○時刻合わせボタンを押してすぐに離すと1分進みます。
○時刻合わせボタンを押してつづけると早送ります。
秒針は12時位置になったときに停止し、ボタンを離れたときに動き出します。
秒針の動きについて
時刻合わせボタンを離れたとき、ゼロ秒に設定されます。秒針が早送りで動いているときに、時刻合わせボタンを離すと、そのまま早送りで現在時刻の秒位置まで動きます。

電波受信機能のON/OFF操作

誤受信しやすいところや意図的に時間をずらしてお使いになるときには、電波を受信しないようにすることができます。電波を受信しないときの時間精度はクオーツ精度になります。
■電波受信機能をOFFにするには（受信機能を無効にするには）

図のように強制受信ボタンを4回押します。ボタンを押すタイミングによっては、OFFに切り替わらないことがあります。このようなときには、操作を繰り返してください。
※電波受信機能がOFFのときに強制受信ボタンを押すと、受信表示ランプは消灯したままで、針が早送りで動いたり、止まったりしてから時刻を表示します。
強制受信 強制受信 強制受信 強制受信
押す 点灯 押す 点灯 押す 点灯 押す 消灯
〈受信表示ランプが点灯したら、すぐに強制受信ボタンを押してください〉

■電波受信機能をONにするには（有効にして受信を開始するには）
電波受信機能は、工場を出荷するときにON(有効)にしています。OFFの状態からONにするときには、時刻合わせボタンを押したまま、強制受信ボタンを押してすぐ離し、時刻合わせボタンを離します。その後必ず強制受信ボタンを押して受信を開始させてください。
強制受信 強制受信 強制受信 強制受信
○ 押し続ける ○ 押しすぐ離す ○ 押しすぐ離す ○ 押しすぐ離す
時刻合わせ 時刻合わせ 時刻合わせ 時刻合わせ

ご注意
※この説明文の中で「押す」は、「押して、すぐ離す」ことです。
※表示用電池を取り出しても設定を保持しますので、電波受信機能をOFFからONにするには、必ず上記の操作をしてください。

1. 使用方法 電池を入れて時刻を合わせる

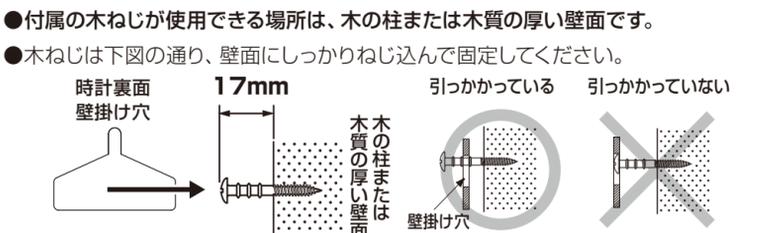
標準電波を利用しないで、手動で時刻を合わせる場合は、〈手動での時刻合わせ〉を参照してください。

- 窓際など電波の受信しやすいところでお使いください。
この時計は、時刻を合わせて出荷しています。
1 電池を入れる 〈表示用電池の入れ方〉参照
電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて電池を入れます。電池の⊕⊖を逆に入れると、電池の液もれ・発熱・破裂の原因となります。
2 強制受信ボタンを押す 〈標準電波-受信の流れとサーチ機能の使い方〉参照
受信表示ランプが点灯して受信を開始します。針が早送りで移動を開始し、およそ3分以内に時刻を表示します。
※電池を入れた後は必ず強制受信ボタンを押してください。
※受信中はボタン操作をしないでください。
3 時計を掛ける 〈時計の掛け方〉に従い、時計を確実に掛けてください。
4 受信開始後、15分経過してから受信表示ランプで結果を確認する
受信表示ランプ 受信成功：2秒に1回点滅 正しい時刻を表示。
受信失敗：消灯 〈標準電波を受信できない場合〉へ
▶照明機能を〈2 照明の使い方〉にしたがって設定してください。

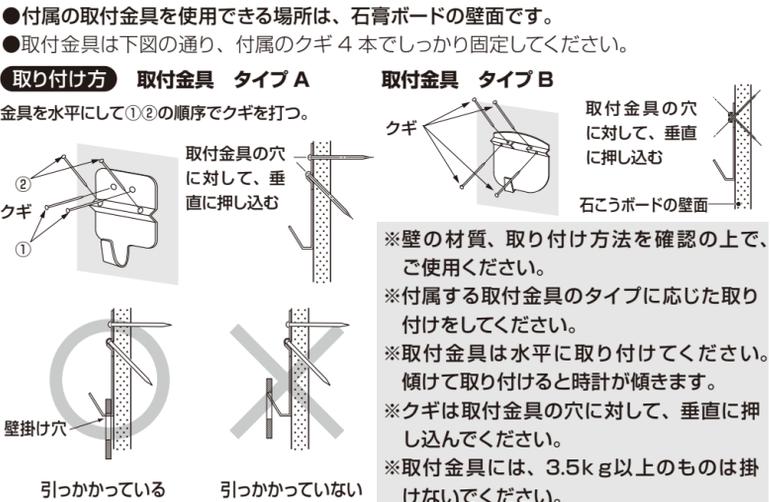
時計の掛け方

- 掛け方が不適切な場合、時計が落下する危険があります。
○垂直に掛けてください。傾くと掛け具から外れる恐れがあります。
○掛けたときは、上下、左右に軽く動かして、壁掛け穴に掛け具(木ねじや取付金具)がしっかり掛かっていることを確認してください。
○市販の掛け具を使用するときは、壁掛け穴にしっかり掛かるものを選んでください。
○ドアを開閉するときの振動が伝わらないところに設置してください。

木の柱または木質の厚い壁面の場合



石膏ボードの壁面の場合

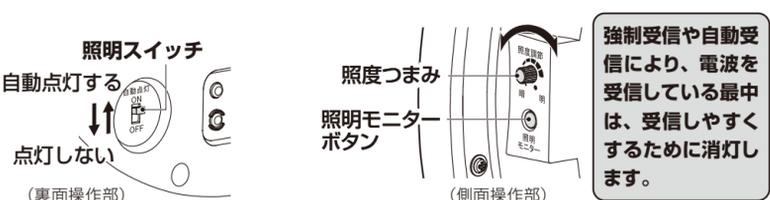


その他の壁面の場合

●コンクリートなどの壁面に掛ける場合は、壁の材質・構造と時計の重量に合った、市販の掛け具をご使用ください。その際、両面テープ式や吸盤式は時計が落下する危険がありますので、使用しないでください。

2. 照明の使い方.....暗くなると文字板面を照明させる

照明スイッチを自動点灯にすると、明暗センサーに連動して、暗くなると文字板を照明します。



明るさの調節
照明スイッチをONにして、暗い室内で照度つまみを回して明るさを調節してください。
照明をためす
照明モニターボタンを押している間、文字板面を照明します。明るさは照度つまみの位置に関係なく明るく光ります。照明モニターは受信中でも点灯します。

明暗センサーとスリープモニター.....暗くなると秒針停止、自動照明

明暗センサーが暗いと判別した場合、受信表示ランプが消灯し、秒針を12時位置で停止させます。また照明スイッチが自動点灯のときは文字板面を照明します。昼間や照明器具により照明されているときでも、明るさが不足するとセンサーが動きまわります。スリープモニターは、センサーが暗いと判別したときの状態を再現します。秒針が55～59秒位置にあるときに、スリープモニターボタンを押してそのまま押しつけてください。秒針が12時位置に停止し、照明スイッチが自動点灯のときは照明します。スリープモニターボタンを離すと秒針は、現在時刻位置に移動します。

電池の交換時期お知らせ機能.....明るいところでも秒針が止まる

電池の交換時期になると、明るいところでも秒針が12時位置に停止したままになり、照明機能が停止します。そのまま放置すると電池からの液もれや誤作動の原因になりますので、速やかに新品の電池にすべて交換してください。
※時計と分針は電池の交換時期になってからおおよそ1ヵ月前後動きます。

◆ 電池の交換 早めに交換して液もれを防ぎましょう

- 電池を長期間使い続けると、電池からの液もれが発生しやすくなります。電池が液もれを起こすと時計の修理や壁面の修繕などに費用が発生することがあります。電池からの液もれや発熱、破裂を防止するためにつぎのことをお守りください。
●時計が停止したときは、速やかに指定の電池に交換するか、電池を取り出す。
●時計が動いていても使い方に応じて定期的に交換する。
●古い乾電池と新しい乾電池、マンガン乾電池とアルカリ乾電池を混ぜて使用しない。
●電池の⊕⊖を逆にしない。

推奨される電池

- ①電池に「月一年」で表示されている「使用推奨期限」が電池交換時より4年以上先のもの例。2011年2月に交換→「02-2015」より先の「使用推奨期限」表示がある電池
② 同一メーカー、同一種類、同一「使用推奨期限」のもの
③ 未使用の単2形アルカリ乾電池
使用推奨期限の表示例→ 03-2015

「使用推奨期限」は、JIS規格に定められた性能を保証できる保管期限のことです。使用推奨期限を過ぎた電池も使うことはできますが、本来の性能を発揮することができません。電池は未使用であっても時間とともに徐々に性能が落ちていくためです（自然劣化）。